



## 日本・ポルトガル修好150周年コンサートツアー

日本から遠く西に位置しながら、ヨーロッパの中で最も長い友好の歴史をもつ国、ポルトガル。日葡修好150周年を迎えた今年、私たちファミローザ・ハーモニーは10月から11月にかけて約1カ月間、首都リスボンをはじめとする各地でコンサートを開いた。「Saudade」

(サウダーデ)。郷愁、憧憬、思慕、切なさといった意味合いを持つ、このポルトガルの言葉は私たち日本人の感性と共感し、呼応する。コンサートを通じて両国の精神的な結びつきを強く感じる旅でもあった。

文 石塚恵美子(ファミローザ・ハーモニー)  
写真 島崎陽子

## 東と西 結びつけた「Saudade」



リスボン・フォス宮殿「鏡の間」でのコンサート。1台のピアノを4人で弾く、世界的にも珍しい「一台八手」を披露



リスボン、ポルト、エヴォラ、モンサラーシュ、ギンショ、コインブラ、ファティマ…。前回2007年と今年のツアーで訪れた地。なかでもファティマは1917年、聖母マリアが出現した地として知られ、以来、世界中から祈りをささげにくる人々が絶えない巡礼地となっている。

私たちが初めてポルトガルを訪れた2004年、旅の目的の一つがマリア様に会った3人の子供のうち、ただ一人生存していたシスター・シニア（05年、97歳で死去）にお会いし、音楽を献奏することだった。その縁が広がり、シスター・シニアの一族の協力があって07年と今回のツアーが実現した。

10月6日、リスボンのフォス宮殿で開かれた日本大使館主催のコンサート。尽力してくださったのがシスター・シニアのおい、フランシスコ・サントス・ペレイラさん（72）だった。私たちにとってはポルトガルの父ともいえる大切な人で、彼への感謝を込めた演奏でもあった。

ツアーでは、各コンサートでスタンディングオベーションがあったり、大きな拍手が鳴り止まなかったり。ポルトガルの人たちの素直な反応が私たちにはたまらなくうれしく、温かく、何よりの励みになった。

「音楽を通して、遠く離れた地球の東と西の架け橋に」。今回のツアーでも私たちの思いは通じたよう。みなさんに心から感謝をしたい。

地図